

Future Asia Program

フューチャーアジア創生を先導する 統合学際型リーダープログラム

Integrated-Interdisciplinary Program for Leading Future Asian Innovation

産学官民の連携による
地球社会的視野に立つアジア・イノベーション人材の育成



交通案内

- 福岡空港から**
- 地下鉄+JR+昭和バス:
福岡空港 → (地下鉄空港線) → 「姪浜駅」
(JR 筑肥線へ乗換) → 「九大学研都市駅」
→ 昭和バス → 「九大ビッグオレンジ前」
- 博多駅から**
- 地下鉄+JR+昭和バス:
博多駅 → (地下鉄空港線) → 「姪浜駅」
(JR 筑肥線へ乗換) → 「九大学研都市駅」
→ 昭和バス → 「九大ビッグオレンジ前」
 - 西鉄バス:
博多駅 → 西鉄バス(「博多駅前A」停留所)
→ 「九大ビッグオレンジ前」
- 天神から**
- 地下鉄+JR+昭和バス:
天神 → (地下鉄空港線) → 「姪浜駅」(JR 筑肥線へ乗換) → 「九大学研都市駅」
→ 昭和バス → 「九大ビッグオレンジ前」
 - 西鉄バス:
天神 → 西鉄バス(「ソラリアステージ前(2B)」または「天神北(3)」停留所) → 「九大ビッグオレンジ前」



お問い合わせ

九州大学大学院地球社会統合科学府
グローバル化プロジェクト推進室
〒819-0395 福岡市西区元岡 744 (伊都キャンパス)
TEL.092-802-5669
E-mail:suishinshitsu@scs.kyushu-u.ac.jp
<http://isgs.kyushu-u.ac.jp/FutureAsia/>



イースト1号館C

九州大学大学院
地球社会統合科学府

目的

本プログラムは、現在のアジアの急激な変容の中で将来のアジアの安定と繁栄をリードする人材を養成するために開設されました。

アジアの中核拠点大学となる九州大学の一翼を担う地球社会統合科学府の新たな大学院教育を飛躍的に推進するため、全学的支援を得て「フューチャーアジア創生を先導する統合学際型リーダープログラム」(平成 25 年度～ 31 年度)が新学府設置に先駆けてスタートしました。本プログラム修了生には「アジアの国づくりを主導・支援する政治・行政リーダー」「国境を越えた課題に取り組む国際機関や NGO 職員」「資源・エネルギー・環境・文化・宗教などに通じた企業リーダー」などの統合学際型リーダーとして、グローバルな活躍が期待されています。

背景

アジアは、21 世紀の半ばには、世界経済の約半分を占めることが予想されている巨大な地域です。そこには、多様な民族、言語、宗教があり、また様々な国家体制が存在していますが、広域地域を結びつけて問題を解決するための基盤となる機構や制度は脆弱です。急激な経済成長はアジア広域地域の勢力バランスの変容をもたらし、資源獲得を目指す大国の侵攻のあとには生々しい傷跡だけが地域に残されることが予想されます。では、地域的安定の基盤が脆弱であるなかで、これらの問題を解決し、将来のアジアの安定と繁栄を築くにはどうすればいいのでしょうか。

その答えを導くための鍵は、紛争や対立の種となるアジアの社会的文化的多様性を、アジアの安定と繁栄のための力へと転換することです。「フューチャーアジア」とは、多様性や差異が安定と繁栄の土台となるアジア多文化共生社会といえるでしょう。

では、多様性や差異を力にするためには何が必要なのでしょうか。それは異なる人々を仲介し、関係を築くように促すモデレーターであり、いったん築かれた関係を、異なる人々同士が相互に尊重する共存型秩序へと成長させるリーダーです。このモデレーターとしてのリーダーをアジアの様々な地域や機関に輩出することが、アジア多文化共生社会の構築に求められており、これを目的として本プログラムが開設されました。



フューチャーアジア創生とは何か？



課題としてのアジアを、可能性としてのアジアへ転換するリーダーの育成

取り組む課題

本プログラムが取り組むフィールドは、アジアです。アジアでは「環境・資源・エネルギー」「政治・宗教・民族」「社会・文化・価値」が複雑にからみあって、数々の難しい問題が生じています。たとえば、新興国の経済成長は、それまでのパワーバランスを変化させ地域を不安定にし、資源獲得競争を引き起こしています。

本プログラムが掲げる「フューチャーアジア創生」とは、この複雑に絡み合うアジアの問題を解きほぐし、アジアに潜んでいる可能性をひき出すこと。つまり、課題としてのアジアを、可能性としてのアジアへ転換することです。

アジアにおいていち早く近代化をなしとげた日本が果たすべきことは、アジアの課題の解決に中心となって取り組むこと、問題の現場に人を送り出すことではないでしょうか。

本プログラムは、そのためのリーダーとなるアジア・イノベーション人材の育成を目指します。

フューチャーアジア・プログラムに参加するメリット

- 地球社会統合科学府の正課生であれば誰でもプログラムに参加できます。(プログラム授業に一度でも参加すればプログラム生として登録されます)
- プログラム授業では国内外で国際的な課題解決に取り組む実務家の講義を含めて様々な実践的な授業を受講することができます。
- プログラム生として登録されれば研究調査旅費の支援に応募することができます。(選考により採用)
- 博士後期課程の学生はプログラム生として登録されれば Research Assistant (RA) および Teaching Assistant (TA) の採用に応募することができます。(選考により採用)
- プログラム授業へ参加することにより、地球社会統合科学府基礎科目「統合学際研究法」の単位を取得することができます。
- 所定の条件(プログラム授業への参加回数など)を満たせばプログラム修了証が授与されます。

プログラム一期生



社会的多様性共存コース
社会学
黄 香淑

学部時代はソーシャルワークについて学び、実際にフィールド調査を行うことが多かったです。しかし、私は内省的な性格で、人見知り激しく、人前で話すことが苦手なので、苦労してきました。そこで、プログラムが目指している「4つの力」を身につけ、自分を成長させるためのチャレンジをしようと思いました。



国際コース
ジェンダー研究
張 天奇

The lectures of the program covered different fields, and I was able to do things that I had never dreamt about: conducting an orchestra, facilitating a meeting, working out a project with my teammates. All these activities granted me a chance to see things from different angles.



包括的東アジア・日本研究コース
文化人類学
毛 雪梅

大学院での勉強の本分は研究ですが、机に向かう研究だけではなく、本プログラムで現場を体験することで、具体的な課題に取り組む力を身につけることができたように思います。以前の自分の視野がいかに狭いものであったかを実感し、修士課程の期間を通して、本プログラムが取り組むアジアの未来に深い興味を持つようになりました。



言語・メディア・コミュニケーションコース
日本語教育学
董 欣

私は日中友好の架け橋になると言う夢の実現のために、日本に留学後は様々な国際親善活動と異文化交流活動に参加し、外国人リポーターとして日本の文化、観光、産業などの海外への発信も行っています。本プログラムへの参加を通して、ICTツールとワークショップを活用した異文化コミュニケーション能力向上プロセスを体系化していきたいです。

プログラム二期生



国際協調・安全構築コース
政治学
田中 侑理

私は学部時代に参加した韓国農村部における学生ボランティアの経験が契機となり、将来は貧困や格差で困っている人々の力になれるような仕事に就きたいと考えています。そこで、その目標を実現するために本プログラムへの参加を決意しました。本プログラムを最大限活用することで、自身に不足している能力を養い、高めていきたいと考えています。



社会的多様性共存コース
社会学
前田 瞳

本プログラムに志望した理由は、アジアの課題に特化した実践的な講義を受講することができ、さらにはそこから転じてこれからのアジアの可能性を見出すという主体性を培える姿勢に魅力を感じたからです。私を含め、将来国際舞台で働きたいと思っている方にとっては、こういったリーダーシップを学ぶことが大変意義のあることだと感じております。



プログラム生(修了生)紹介



国際協調・安全構築コース
政治学
福永 裕美

プログラムに参加したのは、通常の講義のみならず、現場で働く方々からの実践的な講義に魅力を感じたのがきっかけです。また、私は人前で話すことが苦手で、どちらかといえば消極的な性格なので、それを克服できればとも思いました。実際にグループワーク等、人前で話す機会を頂くこともありますので、大変ですが良い経験をさせて頂きました。



言語・メディア・コミュニケーションコース
日本語教育学
山元 庸子

私は学部時代より外国人労働者の増加している九州、福岡における在日外国人労働者の日本語教育について研究を進めてきました。アジア域内には様々な文化、宗教などが複雑に存在しており、これらを日本社会が認識し、アジア域内の人々が共存していくための施策を考えることは、日本社会にとって大きな課題であると考えています。



社会的多様性共存コース
社会学
李 睿

I joined Future Asia Program when I became a Doctoral candidate. Future Asia Program offers all members all kinds of chances to join NGO and NPO activities, visit international department, take special classes and lectures, and work with scholars from other fields. This program also provides me an opportunity to organize my own forum, which is considered as a rare experience.



国際協調・安全構築コース
地理学
張 寧

プログラム生になって以来、本当に過去の自分より成長することができました。視野が広がったと同時に、より深く問題を探究する習慣を持つようになりました。以前は問題に対する解答を得ると、「なるほど」だけで済ませていましたが、今は「なぜそうなのか」の疑問を持って他人と討論し、違う観点を得ることが好きになりました。



国際協調・安全構築コース
地理学
林 旭佳

学部時代は生徒会の部長をしており、その時にリーダーの立場で色々なことを考えましたが、その中で自分の力不足を強く感じました。大学院に入って統合学際型リーダーの育成を目的としているフューチャーアジアプログラムに興味を持ち、リーダーとしての4つの力が私にとって一番必要なものではないかと考えてプログラムへの参加を決意しました。



国際コース
政治学
リンピ・ラニ

The magical point about this program is, it gives a chance to study with the professionals/students with different background. My horizon has been widen since I have joined this program. This program has made me able to think from different perspectives.



教員紹介



プログラム三期生



包括的東アジア・日本研究コース
歴史学
坂井 華海

私は「近代における日本人の“中国”認識形成」をテーマに、歴史学の分野で研究に取り組んでいます。大学院入学後、中国政府奨学金生として復旦大学に留学し、復学後はプログラム生として「留学生ネットワークを活かしたインバウンドの可能性-九州・熊本県を例として」という課題を設定して熊本県の「くらラボ」研究員としても活動しています。



国際コース
言語学
陳 璿琰

My name is CHEN Jinyan, majoring in applied linguistics, debate, and language education. My study at the ISGS has been one of the most unforgettable experience in my life, and I would like to continue my study and research here as a member of Future Asia Program, harnessing the power of language to create a better future Asia.



言語・メディア・コミュニケーションコース
日本語教育学
陳 帥

学部時代は日本語専攻でしたが、留学生として日本に来て、日本で生活している外国人が言葉の壁のために不便な生活をしている現状に気づきました。自分の力で彼らを支えたいと思って大学院に進学し、地域日本語教育のあり方を探求することにしました。このプログラムを通じて言語文化教育の領域において将来のアジアの可能性を検討したいです。



国際協調・安全構築コース
政治学
傅 嘉憶

中国浙江省寧波市出身の傅嘉憶です。現在はイラク・クルドにおける市民社会の現状、非伝統的国家社会の関係について研究しております。未来アジアのリーダーの育成を目標とする本プログラムでは、リーダーシップをめぐる四つの力を全身につけるのは難しいですが、自分としては積極的にその目標に向けて成長していきたいと考えています。



国際協調・安全構築コース
国際関係学
山口 祐香

私は朝鮮通信使にまつわる諸行事とそれに関わる日韓の人々の活動や相互理解の発展について研究しています。フューチャーアジアプログラムでは外部講師の方々の講義に加え、台湾や与那国島研修など普段では出来ない学びの機会が与えられ、より広いアジアや世界全体の視野から改めて自分のフィールドを考える姿勢を身につけることが出来ました。



中野 等

九州大学大学院
地球社会統合科学府
学府長 責任者



松永 典子

九州大学大学院
地球社会統合科学府
教授 コーディネーター



荒谷 邦雄

九州大学大学院
地球社会統合科学府
教授 サブコーディネーター



波瀨 剛

九州大学大学院
地球社会統合科学府
教授 サブコーディネーター



ホール アンドリュー

九州大学大学院
地球社会統合科学府
准教授 サブコーディネーター



プログラム 科目

地球社会統合科学府の授業科目は、
地球的視野に立った学際性と
専門的な研究能力の研鑽を目的として構成されています。
本プログラムの授業科目は、
この学府教育を基盤として、統合学際型リーダーの養成を目的とする
4つの力(伝える力、歩く力、描く力、率いる力)に重点を置いた
実践的な内容で構成されています。

プログラム 授業を実施した 外部機関

国連ハビタット (UN-HABITAT)
国連開発計画 (UNDP)
国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR)
国際協力機構 (JICA)
文部科学省
九州国立博物館
福岡市水道局
糸島市企画部地域振興課
福岡市立内浜小学校
聖マリア病院 (NPO法人 ISAPH)
三菱重工業株式会社 長崎造船所病院
公益財団法人 福岡アジア都市研究所
公益財団法人 福岡県国際交流センター
福岡マシジド アンヌールイスラム文化センター

NPO法人 女性エンパワーメントセンター福岡
NPO法人 アカツキ
釧路市民団体「クスロ」
香港中文大学 (中国)
梨花女子大学 (韓国)
国民大学校 (韓国)
熊本学園大学
立命館大学
東北大学
株式会社 トライローグ
株式会社 LbE Japan
株式会社 野村総合研究所
福岡インディペンデント映画祭実行委員会
他

1 伝える力

現場と深くコミュニケーションできる力

- ・調査インタビュー手法実践ワークショップ
- ・多様性理解に関する実践ワークショップ
- ・演劇手法によるコミュニケーションワークショップ



ミーティングソリューションワークショップ



多様性理解に関するワークショップ



平田オリザ氏演劇ワークショップ



研究計画書の書き方合宿

2 歩く力

世界をまたにかけるフィールド調査力

- ・アジアフィールド研修
- ・海外での感染症対策
- ・日本での越境問題・外来種問題現地調査



アンコールワットの壁画見学 (カンボジア)



サバ州立博物館訪問 (マレーシア)



生物学の視点からアジアの環境問題を考える (沖縄)



伊都古墳めぐり

3 描く力

未来アジアの理想像を追求する構想力

- ・国際協力プロジェクトマネジメント研修
- ・国連機関、JICA、NPO 訪問
- ・アジアにおける多様な問題理解



国際協力プロジェクトマネジメント研修



アジアの課題解決に向けた国連の取組み



博物館で学ぶ文理融合の実践



外国人児童教育を通して見る多文化共生社会のあり方

4 率いる力

構想実現のために組織を牽引する指導力

- ・フューチャーアジア創生フォーラム企画・運営
- ・ファシリテーションワークショップ
- ・NPO 法人の設立・運営手法



ファシリテーション、ビジュアルミーティング手法



フューチャーアジア創生フォーラム



熊本地震被災地支援活動



リーディングプログラム合同ワークショップ

活
動
紹
介
ラ
ム